

令和7年度第1回地方独立行政法人機構評価委員会 議事要旨

日 時 令和7年7月29日(火) 16時00分から17時40分

場 所 加古川中央市民病院 3階 会議室

出席者 委 員 5名  
加古川市民病院機構 12名  
事務局 7名

- 会議次第
1. 開会
  2. 諮問書の提出
  3. 議題
    - (1) 令和7年度の評価委員会開催予定について
    - (2) 令和6年度運営状況の概要について
    - (3) 令和6年度業務実績に関する評価について
    - (4) 中期目標期間業務実績見込に関する評価について
  4. 閉会

1. 開会	開会の宣言 ＜委員長あいさつ＞
2. 諮問書の提出	事務局から委員長へ諮問書を提出。
3. 議題	（１）令和7年度の評価委員会開催予定について 令和7年度の評価委員会の開催予定について、資料1に基づき、事務局から説明を行い、委員の了承を得た。
	（２）令和6年度運営状況の概要について 令和6年度の運営状況及び決算概要について、資料2・3に基づき、市民病院機構から説明があった。  （委員） コロナ関連の補助金が減ったということを差し引いても順調という印象を受けた。  （委員） 医業費用の材料費が前年度より多くなっているものの、不可避のものである。その中でも、新型コロナウイルス感染症の収束後も外来・入院単価は維持されており、黒字を維持して健全な収支を保っている。  （委員） 運営費負担金を除いた収支は赤字になるものの、県内他の公立病院の状況を踏まえると、順調に運営されている。  （委員） 厳しい状況が続いた2024年度もすべて良い成績を上げている。  （機構） 上半期は厳しい状況で、年度当初の状況が続けば黒字は厳しい状況だったが、後半にかなり稼働率が上がった。特に当院は循環器分野に強みがあり、患者数が伸びたため、最終的には黒字決算となった。  （委員） もともと加古川中央市民病院は医療提供体制の基盤がしっかりしており、平均在院日数も短く、救急車受入件数も非常に多い。患者数が減少している中で着実に数字を残している。
	（３）令和6年度業務実績に関する評価について 令和6年度の業務実績の概要及び法人の自己評価について、資料4・5に基づき、市民病院機構から説明があった。  （委員） 病院側が評価5をつけているところは達成率100%を超えているため、特に意見することはない。高度専門医療の項目はもっと評価が上なのではないか。報告書を確認したが、頑張っている部分は評価したい。

(委員)

病院側が評価5としているところへの指摘はないが、評価3は控えめな印象を受けたため、持ち帰り検討したい。

(委員)

24時間365日の救急受け入れ体制、特に、緊急性が高く、生死にかかわる部分を専門としている「心臓血管センター」・地域の方の分娩件数が多くなっている「周産母子センター」・「こどもセンター」が大きな柱になっている。また、がん医療の充実として終末期緩和ケアを始めるなど、多くの課題に取り組んでいることは高く評価できる。

(委員)

公立病院としての役割を果たしつつ、経営状況も非常に良いうえ、高度で専門的な医療を拡充している状況であり、指摘するところはない。

(委員)

国内の出生数は減少しているが、加古川中央市民病院の分娩数が増えた原因は何か。

(機構)

分娩を中止したクリニックや大きなクリニックが人手不足で分娩制限をしているため、一時的に件数が増えた。

(委員)

「医療安全管理及び感染対策の徹底」の「AIを用いた医用画像診断支援システムの活用」について記載があるが、見落としを防止する対策は何か。

(機構)

システム上でレポートが書かれると、オーダーした医師のところで見られているかチェックするシステムを導入し運用している。

(委員)

病院側で評価にあたって、機構として強調したい点はないか。

(機構)

救急不応率について、患者の受け入れを断るのは1割以下にしようと目標値を10%以下で設定し、救急車をたくさん受け入れているが、実際はこの数年達成できていない。特にコロナ禍では発熱のような軽症患者でも救急車を呼ぶ方が多く、その中に大動脈解離のような重症患者がいて混乱することもあった。現在も救急搬送の件数は増加傾向で受け入れ対応に追われている状況であり、そもそも受入要請が多いことが一因かと思う。

(委員)

受入要請の数は非常に多いため、加古川中央市民病院は重症患者の受け入れ可能な体制を維持しつつ、下り搬送を行い、軽症患者は他院で診ていただく必要も高まるように感じた。

(機構)

当院が近隣であることを理由に診療を希望されるケースもあり、なかなか理解が得られず苦慮している。

(委員)

昨年度はガン医療に非常に力を入れ、がん登録、化学療法、放射線治療計画の件数が2023年度よりもかなり上がっているのは印象的である。

#### (4) 中期目標期間業務実績見込に関する評価について

中期目標期間業務実績見込に関する評価について、資料6・7・8に基づき、市民病院機構から説明があった。

(委員)

「高度・専門医療の提供」について、「(2) 循環器疾患にかかる医療の充実」では達成率が低い、加古川中央市民病院がこの分野に強みがあることから、単に病気が少なくなっているものだと認識している。また、「(4) 周産期医療の充実」においても、東播磨圏域では小児医療は加古川中央市民病院と明石医療センターの2強が牽引していると思う。以上のことから、十分評価ができ、より高い評価をしてもよい。

(委員)

単年度では救急車受入件数が増え、機構の取り組みが功を奏していると評価できる。

(委員)

高度専門医療としてヒヤリハットも継続し、振り返りつつ、次につなげており、コスト面に関してもペーパーレスなど、多くのスタッフが取り組んでいるものと感じている。コロナ禍でも、職員の働き方改革を行い、職員の満足度、患者の満足度も大きく変化はしていないことは、大きな目標を持って、専門職としてフォローをしてきた結果である。

(委員)

加古川中央市民病院では、緩和ケア科・緩和ケア病棟の新設をはじめ、毎年医療の専門化・高度化を進めており、人手不足が課題となる中でも研修医からの人気が高い。人口減少や物価高騰などの外的要因による不可避な部分は別として、病院内部で取り組み得ることについては真摯に対応され、成果を上げている点は大変意義深い。

(委員)

委員の意見を踏まえて、この5年間について機構から意見・感想はあるか。

(機構)

単年度計画はなるべく中期に近い目標を立て、達成しようとやってきた。ただし、今回の中期計画は2020年度の後半にコロナによる影響を想定せずに作成したため、医師確保に関するシミュレーションや救急不応率などコロナ禍で診療体制が

	<p>逼迫したこともあり、5年間の目標を達成する難しさを感じた。</p> <p>(委員)</p> <p>2021年度はどのようにコロナ対応をすればよいかわからない時期だったが、非常に上手に対応されていたという印象をもった。</p>
4. 閉会	<副委員長あいさつ>